

第 2 回三豊市ごみ処理技術検討委員会議事録【要旨】

1. 開催日時：平成 20 年 8 月 27 日（水）13 時 30 分～
2. 開催場所：三豊市役所別館会議室
3. 出席者
委員：浮田正夫、麻田恭彦、田嶋眞一、古川尚幸
事務局：（三豊市）清水副市長、小野部長、岩本次長、磯崎課長、中野課長補佐、小野課長補佐、内田副主任、合田主任主事、
（日本総合研究所）石田、木通、田中、赤石、田嶋
4. 傍聴人：8 人（報道者含）

【議事次第】

1. スケジュールについて
 - ① 平成 25 年 4 月に向けた事業化スケジュール（案）
 - ② ごみ処理技術検討委員会の全体スケジュール（案）
2. 三豊市のごみ処理の現状について
 - ① 平成 18 年度のごみ処理フロー
 - ② 平成 18 年度までのごみ排出量実績
 - ③ 平成 20 年 10 月以降のごみ処理フロー
3. 現行のごみ処理システムについて
4. その他

資料一覧

- 資料 1 平成 25 年 4 月に向けた事業化スケジュール（案）
- 資料 2 ごみ処理技術検討委員会の全体スケジュール（案）
- 資料 3 平成 18 年度のごみ処理フロー
- 資料 4 平成 18 年度までのごみ排出量実績
- 資料 5 平成 20 年 10 月以降のごみ処理フロー
- 資料 6 現行のごみ処理システム

参考資料 1 第 1 回三豊市ごみ処理技術検討委員会議事録【要旨】

参考資料 2 埋立処分地理立量

参考資料 3 三豊市の現状

【会議録】

午後 1 時 30 分 開会

(浮田委員長)

【挨拶】

(清水副市長)

【挨拶】

(事務局)

【配布資料の確認】

(浮田委員長)

会議の公開、傍聴者の人数、テレビ取材及び日本総合研究所同席について説明。

(事務局)

【参考資料 1 の第 1 回ごみ処理技術検討委員会議事録について説明】

(小野部長)

【ごみ処理技術検討委員会の設置にいたった経緯について説明】

三豊市では、これまでのごみ処理方法から、ごみの資源化を進めると共に地球温暖化の防止に貢献する処理方法への転換を検討することとしており、これはわたしたち委員会に課せられた使命であると考えます。ごみは資源になるという認識のもとで、熔融システムなどの処理方法ではなく、焼却処理をできるだけ最小限にすることが目指すべき方向性と考えます。

ダイオキシンの存在や二酸化炭素、温暖化といったさまざまな問題が顕在化している現在、ごみ処理方法についての再検討を行うとの勇気ある判断をしたことを巡っては、添付資料の新聞報道にあるとおりです。広いごみ処理の技術や知識を有する専門家の皆様とより良い方向性を検討していきたい。

(浮田委員長)

三豊市と三観広域行政組合との関係について教えてほしい。今回の検討では、三観としてではなく、三豊市として検討してよいのか？

(小野部長)

その通りです。

(浮田委員長)

一応、バイオガス方式は市として念頭においているが、それも含めよい方法を検討するという趣旨かと思うがそれでよろしいか。(一同了承)

【資料 1 について】

平成 25 年 3 月という期限が決まっているわけなので、それに向けて長期的にどのような計画を立てていくかということが主な課題。事業化スケジュールに関して日本総研のほう

から説明いただきたい。

(日本総研田中)

【資料1の事業化スケジュールを説明】

(浮田委員長)

それではまず資料1の24年度末に向けた長期のスケジュールに関して説明いただいたわけですが、何か質問ありますか。

(田嶋委員)

全体スケジュールは了承した。最終的には委員会としてではなく、三豊市として決定するとの認識で相違ないでしょうか。また、用地買収の時期はどのように考えていますか。

(小野部長)

用地買収については、日程が最終的に決まっているわけではありません。それにつきましては、一定の方向性、計画が出た時点でその都度その都度で議会に出します。

(田嶋委員)

現況調査については冬と夏の2期が予定されていますが、春もやればどうでしょう。おそらく秋のほうが排出量が多いのではないのでしょうか。

(浮田委員長)

そこにつきましては県とまた相談してやっていただきたい。非常にきついスケジュールですね。かなり入念に検討しないとそのシステムは決まらないわけですね。ここはタイト、厳しいところだと思いますがいかがでしょうか。最後が決まっているわけですから、十分な検討が必要だと思います。

(田嶋委員)

システムがどの方向をとるにしても、コストの見積もりが大切だと思いますが、その辺りの検討も必要と考えます。

(浮田委員長)

当然その検討も入れ込む必要があります。勿論技術的な問題もあるかと思いますが、エネルギー関係の問題も入ってくると思います。また、この度は分別収集のシステムだとか市民の理解が大きなウェイトを占めております。そのあたり市民に納得していただけるような説明ができるかも重要と考えます。(一同了承)

【資料2について】

短期的なスケジュール、平成20年度と21年度についてスケジュールの案を示していただいておりますので資料2の説明を頂いて議論に参りましょう。

(田中日本総研)

【資料2の全体スケジュールを説明】

(浮田委員長)

それでは平成20年度末まで委員会としては6回、後4回どういふことを審議していこう

かということ、それからそれに関連した環境市民会議のやりとりのご説明を受けたわけですが、ご意見ございますか。

(古川委員)

ごみ処理技術検討委員会のカウンターパートとして環境市民会議というものがあるのですが、具体的にどのような方がこられるのか、どのように公開されるかということを伺いたい。新聞記事を見ても市民がどう考えているか伝わらない。三豊市議会議員の皆さんも三豊市がやろうとしているバイオガスがいいのか悪いのか判断ができていない状態です。議員でさえそうであるから市民は尚更だと思います。市民の意見をきちんと聞くことが重要と思いますが、どのようにして会議が行われるかだけ聞きたい。

(磯崎課長)

ごみ処理技術検討委員会と環境市民会議に関してですが、環境市民会議については各種団体で特に環境に関心のある方を想定しているところであります。ごみ処理技術検討委員会で検討した結果を環境市民会議のほうへ投げかけまして、考えなり意見なりをお聞きしたいと考えています。これらを踏まえて、ごみ処理技術検討委員会の中でも再度検討し、進んでいかなければならないと考えております。

(小野部長)

市民にご理解を頂かないとなかなか行政だけでは難しい。その辺りは中間報告を進めながら審議を行います。特に比重的には女性の方を多く募集したいと思っております。

(古川委員)

では、市民会議というのは三豊市が人選する会議ということですか。また、公開するかしないか、フリートーク形式か、普通の市民もある程度発言する機会があるかという点はいかがでしょう。

(小野部長)

会議ですから人数的には今 20 名前後を想定しています。様々な組織や団体を選考する、また男女別、年齢別などを含めてどのような形がいいのか悪いのかは判断が非常に難しいと考えます。またフリートークという形ではなく、技術検討委員会に出されている内容を市民にもわかっていただくという観点から行います。

(古川委員)

市民の皆さん興味のあることだと思いますし、できるだけ公平性を保った形で人選していただきたいと思います。例えば、21 年度にシンポジウムの開催も予定されていますが、もう少し早く、20 年度の処理システムを決める前に幅広く市民の方々の意見を伺う機会を設けるのはいかがでしょう。これは私見ですがそのように思います。市民会議を開くということは透明性を保証しているわけですが、もっと透明性を高めてもいいのではないかと思います。

(小野部長)

当市の基本的な考え方につきましては、今年の 10 月から始まります、新たなごみ分別の

動向も踏まえて一定の包括的な考え方を示した上で市民の皆様に向うことを想定しています。

(古川委員)

確認ですが、会議は公聴可能でしょうか。

(小野部長)

それは可能です。

(古川委員)

市民会議の1、2回目の間で、HPなどで市民の意見を伺うということでしょうか。

(日本総研田中)

基本的考え方としては、20年度は本委員会で検討を進め、21年度はより広く市民会議のメンバーに諮ることを想定しています。

(古川委員)

恐らくそんなに意見の幅は無いと思いますが、市民の方が意見を表明される機会も設けて、その意見を踏まえながら審議していくのがこの委員会の目的と考えます。透明性を高める上でも重要です。

(浮田委員長)

技術的な部分で行けば、わかりやすい判断材料が作れるかが重要です。われわれ専門家でも判断が難しい事項であります。市民は尚更です。一回目の会議で完璧な資料が提示できるのでしょうか。

(古川)

それができなければ市民会議を開く意味はありません。

(浮田委員長)

自治会だとか自治会の中の環境衛生担当とかですね、山口県のほうでは環境衛生連合会がありますよね、そういう地域代表みたいな方々が入られる可能性ありますか。分別収集だとか実際に担当されるのはそういう方々だと思います。そういったしっかりしたベースの方が加わっている必要があるかと思います。

(小野部長)

三豊市も該当組織があるので活用する方向はよいと思います。なお、フリートークに近い形では、意見が発散してまとまらない可能性があります。できればそういうことを積極的にやっていくことは必要だと思いますが。

(古川委員)

おっしゃるようになかなか議論が発散して、まとまらないだろうと思いますので、せめて1回目と2回目の間は自由に表現できる場があればと。

(小野部長)

何も方向性の決まっていないところでは無意味です。方向性をまずは技術検討委員会で示し、その上での市民会議への提示することが良いと考えます。

(古川委員)

第 3 回の技術検討委員会でごみ処理の選択肢を定めてしまうことになっている。その段階で皆さんどういった考えをお持ちですかと伺いたい。ゼロから 360 度意見を出させるといった意味ではない。

(浮田委員長)

事務局のほうでいい資料を作っていただきたい。他ございますか。

(田嶋委員)

スケジュール的に技術検討委員会と環境市民会議の間隔が短い。先ほどまで言われたように処理方式を 10 件から 3 件程度まで絞りこむだけなら話は早いですが、コストの問題や技術の問題も含めて検討するとなると、このスケジュールで本当にいけるのか。われわれとしても明確に説明できるのでしょうか。技術検討委員会の第 2,3 回の間隔と、第 1 回の市民会議の時間の開きが微妙と思います。

(日本総研田中)

ご意見踏まえて、再検討いたします。

(浮田委員長)

十分な資料が集まって、そしてこの委員会です承ということになれば、第 1 回環境市民会議との間はさほど長くないと思います。次回の委員会で 3 案に絞れるように資料を作れるかというのが一番大事です。

21 年度の予定のスケジュールについてご説明願います。

(日本総研田中)

【平成 21 年度の全体スケジュールを説明】

(浮田委員長)

スケジュール案について何かご意見ございますか。

20 年度に一般廃棄物処理計画策定、21 年度は循環型社会地域促進計画を作成するということで、かなりソフト面が焦点となっています。メーカーヒアリングも入っていますが、これは事業者の決定ではありませんね。

(日本総研田中)

その通りです。

(麻田委員)

21 年度の 4 月から用地合意のプロセスが入るわけですが、まったく別のものとして考えてよいのですか。

(日本総研田中)

技術検討委員会での第 5 回での案が決まってから、用地の検討が始まる市民会議との関連は現段階では、必要に応じて諮るとの理解です。

(浮田委員長)

これは直接関係ないですね。用地同意は主に市のほうで進められることと思います。

他にございますか。全体的にはスケジュールがかなりタイトです。この1、2ヶ月が勝負かなと思いますが事務局にがんばっていただき、この内容は承認されたということによりよいでしょうか。では三豊市のごみ処理の現況について、説明を事務局お願いします。

【資料 3,4,5 について】

(日本総研田中)

【資料 3,4,5 を説明】

(浮田委員長)

三豊市のごみ処理フローの現状について詳しく説明していただきましたが、ご質問ありますでしょうか。

(古川委員)

資料 3、収集運搬方法等で実線、点線、実線の二十括弧であったり、斜線であったり、いろんな記号が出てくるがこれはどういうことか。同じステーション収集であっても実線と点線がありますが。

(田中)

点線は一部市町村での収集など、収集運搬方法の違いを示したまでです。

(古川委員)

ステーション数はいくつくらいですか。指定場所持込の指定場所は。

(小野部長)

ステーションは約 950。指定場所は各町一つ、詫間の出張所を入れますと計八つです。

(田嶋委員)

金属ごみの定義は。携帯やデジカメは。

(事務局)

金属ごみは、50センチ以下の家庭から出る金属。携帯やデジカメは不燃ごみ。50センチ以上は粗大ごみです。

(田嶋委員)

このシステムがうまく動き出すと4ページにあるような紙類、ビニール類48%から、うまくリサイクルに回ると厨芥が70%になります。水分がかなり多くなるが収集は可能ですか。

(磯崎課長)

10月以降の分別収集では、資源になるものは全部資源にしようということで考えています。この分別収集が軌道に乗りますと、生ごみの割合がかなり増えます。説明会などで今まで以上の水切りの徹底を訴えていくことなど想定しています。

(浮田委員長)

新聞や雑誌が現在かなり入っているということは、収集のシステムが不十分ということ

ですよね。9町で一箇所では少なすぎるのでは。ステーション回収で業者回収のほうが収集率が良いかもしれない。

集団回収の2,500 tというのは結構多いですね。

(小野部長)

そう思います。

(浮田委員長)

厨芥を分別収集するということになれば、分別方法は多岐にわたる。

(小野部長)

最後に生ごみだけ分別収集するとなるとかなりハードルが高いです。

(田嶋)

コストというのは分別の種類とか走行距離によって変わってくると思います。

(浮田委員長)

もちろんその資料も含めて次回提示していただかないと判断できない。

(小野部長)

収集コストですが、一般的に三豊市が合併以前から引き継いでおりますので、平均12、13億であります。リサイクル技術というのは今も使われておりますが、それだけ分別がされますと収集コストがかかります。いかにして今のパッカー車の運送コストを維持するかなどが重要です。

(浮田委員長)

ステーションが決まっているわけですから一回周るコストというのは計算できる。それがわかればこの分別がいいのか、処理するほうがいいのか変わってくる。

(小野部長)

現在、委託している地域と直営の地域があり、そういったところはもう少し精査が必要です。

(浮田委員長)

紙類の指定場所持込で町内一箇所は厳しい。集団回収というのはそれほど盛んですか。

(小野部長)

年二回です。一戸建ての家はいいが、マンション、アパートなどの保管場所がない世帯では、一回を逃すと大変といった問題もあります。

(浮田委員長)

最後に、現行処理システムについてです。これは選択肢に関する部分だとは思いますが、よろしく願います。

【現行処理システムについて】

(日本総研田中)

【資料6を説明】

(浮田委員長)

考えられる現行のごみ処理システムということですが、何か特にご意見ございますか。

(田嶋委員)

中間処理の期間の長さが課題と考える。バイオガスになると発酵などに時間がかかる。設備の大きさも含めどのようなことが変わってくるか検討する必要があります。

(浮田委員長)

六つの方法が示されていますが、そのなかでサブで二つで分かれるところもありますので、ここから 10 通りくらい比較表を作るということですか。

(日本総研田中)

そのように想定しています。

(浮田委員長)

RDF と随分違いますよね。RDF は捌きにくいけれども RPF は受け入れ先がある可能性がありますよね。20 年度のプラスチック包装、固形燃料について、ここにグリーンテックとかパブリックとかありますが、これらはどのような企業か。これは指定法人で受注しているのか。

(事務局)

していない。バイオ燃料などを生産している。

(浮田委員長)

RPF の受け入れ先を地域内に求めるのか、地域外に求めるのかが問題になる。

バイオガスの RDF 化、あるいは RPF 化については、燃やせるごみで集めてしまうと RDF にしかない。分別するのが望ましいが市民に負担がかかる。脱焼却で見ていったのに、焼却とは変な結論ですね。それを含めて検討しなくてはいけない。

水俣市ではし尿を液肥化して飼料畑にまいている。6 番というのは検討外かもしれない。バイオガス化でも液肥は出てくるといえば出てくるが。これはなくてもいいかもしれない。

他にありますか。次の段階で 10 通りくらい出していただいて 3 つくらいに絞るという作業を行いたいと思います。

(日本総研田中)

20 年度しっかりできていれば 21 年度比較的楽になります。場合によれば、21 年度の一回を 20 年度に移すこともありうべしと思います。

(浮田委員長)

大体本日の予定された議題について議論できたかと思いますがよろしいでしょうか。では、次回開催の予定等について事務局のほうからよろしくお願いします。

(事務局)

次回開催は 11 月 6 日 (木) 13 時半開始を予定します。

議事録は確認修正後公開いたします。

以上。